

③生態系の機能と構造

生態系の機能と構造は、事業実施区域周辺海域を特徴づける基盤環境であるサンゴ礁や海草藻場の上に、注目種が生息することによって成り立っていることから、機能と構造については、基盤環境の変化に基づき予測した。

生態系の構造は、生物の種の構成や主要な食物連鎖及び栄養段階が、サンゴ礁、海草藻場の基盤環境の変化によって受ける影響を予測した。

機能については、物質循環や生物の場の利用が、サンゴ礁、海草藻場の基盤環境の変化によって受ける影響を予測した。

(3)予測結果

①基盤環境

工事の実施については、環境保全措置として、赤土等流出防止対策を講ずることにより、海域へ負荷される処理水の影響は轟川河口に限られ、SSの寄与濃度は極めて小さいこと、さらに、工事に伴う赤土等の堆積による影響の程度は極めて小さいと予測されることから、工事の実施によりアオサンゴ等注目される群落及び高被度域や、海藻類が繁茂するリーフエッジの環境の変化はほとんどなく、事業実施区域周辺海域における生態系の主な基盤環境であるサンゴ礁、海草藻場の生息・生育状況の変化はないものと予測される。

②地域を特徴づける注目種

工事の実施については、環境保全措置として、赤土等流出防止対策を講ずることにより、海域へ負荷される処理水の影響は轟川河口に限られ、SSの寄与濃度は極めて小さいこと、さらに、工事に伴う赤土等の堆積による影響の程度は極めて小さいと予測されることから、事業実施区域周辺海域における生態系の主な基盤環境であるサンゴ礁、海草藻場の生息状況の変化はないものと予測されることから、工事の実施がこれらを基盤としている注目種の生息状況の変化はないものと予測される。すなわち、サンゴ礁、海草藻場を生息基盤としているアオサンゴ群落及び高被度サンゴ群落や海藻類等注目種の生息状況の変化はないものと予測される。

③生態系の機能と構造

工事の実施については、環境保全措置として、赤土等流出防止対策を講ずることにより、海域へ負荷される処理水の影響は轟川河口に限られ、SSの寄与濃度は極めて小さいこと、さらに、工事に伴う赤土等の堆積による影響の程度は極めて小さいと予測されることから、事業実施区域周辺海域における生態系の主な基盤環境であるサンゴ礁、海草藻場の生息状況の変化はなく、サンゴ礁、海草藻場を生息基盤とする注目種の変化もないと予測されることから、生態系の機能と構造の変化はないものと予測される。